

日本海岸方面に於ける暖地要素の二三に就て

小 泉 源 一

日本海沿岸方面と之と同緯度の太平洋海岸方面との氣候を比較すると、日本海方面は餘程暖い、かつて例の天然記念物調査報告にウラジロの分布の事を書いてあるのを見たが日本海方面は山陰道あたりで止つて居た、然し實際は越後國海府ノ浦に達して居り、同じく天然記念物調査報告は羽後の男鹿半島の南海岸の椿部落を以てヤブツバキの北限地となせども實は、陸奥の國深浦地方に及んでゐる。其他一々此に述べざれど、烏海山の北麓で孟宗竹や無花果が栽培され、飛島の植物景觀は暖帶南部に見る如き林相である、有名な象潟は處處に暖地性植物を栽植してゐる等、意外の心地せらるるが實は如此き暖い地方である。ついでに是は太平洋側の事だが天然記念物調査のやうな伊勢神宮神域植物調査書には、ケイノキ (*Loropetalum chinense* Oliv.)の産する事を洩らしてあるが今年篠原、大井、三木の諸士が神路山に採集した、ケイノキは支那中南部には甚多く西はヒマラヤに及んでゐる木本で、マンサク科のもので丁度トサミヅキ屬と同一軌の分布をするものである。

ヤクタネゴエフ と デハトネリコ

小 泉 源 一

ヤクタネゴヤウ (屋久種子五葉松) (*Pinus Amamiana* Koidz.) は屋久島、種子島のみに天生する五葉松の一種にして特産なり、近時本種を中部支那産の *Pinus Armandii* FRANCH. と同一種となす人あり、然し予が巴里博物館腊葉室に保存さるるフランセー氏の原品と比較せしに、全く別種にして殊に其葉の横断面等に於ては截然之等を別つべし。

デハトネコリ (*Fraxinus stenocarpa* Koidz.) は山形縣米澤市、林泉寺町、遠藤龜次氏宅地に現存するもの即ち本種のタイプなり、近時之を *Fraxinus Spaethiana* LINGELH. と同一種と見る人あり、之は前件よりも大なる誤にして、*Fraxinus Spaethiana* LINGELH. は一八七五年頃 HAUMIE 氏庭園に栽培しある出處不明の植物に命ぜしものなり、現今伯林ダーレム植物園にも之を栽培せり。此植物は果して日本産なるや研究の餘地あり。

莎草科植物雜記 (1)

大 井 次 三 郎

1) オホツルスゲー *Carex pseudo-loliacea* Fr. SCHM. は従來樺太、千島及び北海